

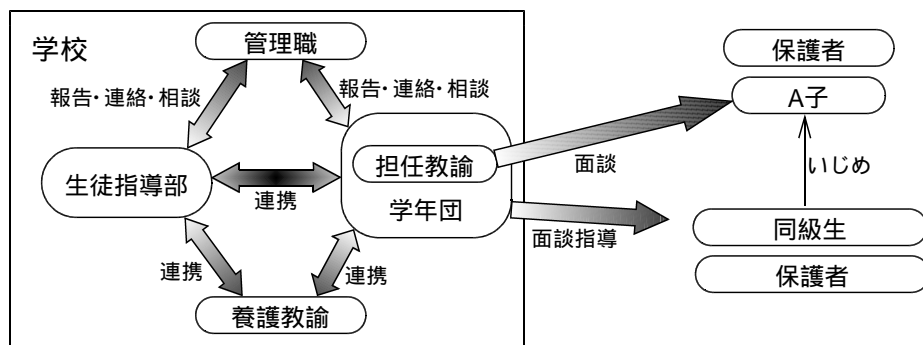
## いじめを速やかに解消した事例10（高等学校第1学年女子）

### ～全教職員による組織的な対応～

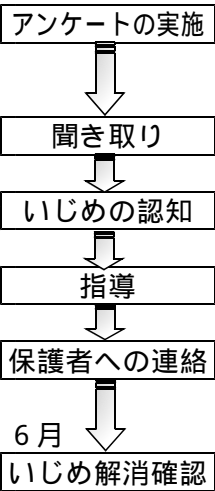
#### 問題の把握

5月、記名式による「いじめに関するアンケート」によりいじめが疑われる記載あった。担任教諭が直ちに本人とクラスの友人等への聞き取りを行い、いじめの事実を確認し、生徒指導部が中心となって対応策を検討した。内容は、同じクラスの女子生徒による冷やかし、からかい、悪口や嫌なことを言われることなどに加え、脅しめいたことを言われることである。担任教諭の速やかな対応と教職員の組織的な連携により、事態は速やかに解消へと向かった。

#### 対応状況



5月



5月、「いじめに関するアンケート」により、担任教諭は、A子がいじめにあっているらしいことを知り、同日放課後、A子に内容を確認した。担任教諭は生徒指導部に対応方法について相談した。

生徒指導部が学年団の教諭の協力を得て加害生徒に聞き取りを実施し、いじめの事実を確認できた。

担任教諭は養護教諭から、A子が友人関係について悩んでいたことなどの情報を得た。

加害生徒が謝罪する意思があることを生徒指導部で確認した。学年団は、放課後、A子への謝罪と話し合いの場を設けた。

担任教諭は関係生徒の保護者にいじめの事実と学校の対応策を伝えた。学年主任が学年集会において、いじめは絶対に許されるものではないことを指導した。

6月、担任教諭、養護教諭及び学年団の教諭が、A子と加害生徒の関係回復といじめの解消を確認した。

#### いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学級担任が一人で抱え込むことなく、全教職員が情報を共有し役割分担を明確にしなが、組織的に対応すること。
- ・生徒指導部が中心となり、速やかな指導計画の作成により対応すること。
- ・保護者からの情報提供を得るとともに、対応方針を速やかに伝え、学校との信頼関係をしっかりと築くこと。
- ・担任教諭や学年団は養護教諭との日常的な情報交換を大切にすること。
- ・「いじめに関するアンケート」を効果的に利用できるような年間の指導計画に位置付けること。